

産禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・産禪洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診察日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00

〒502-0017 岐阜市長良雄絶878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第107号 2013.2.1.

毎月1回発行 産禪洞診療所 松井英介

近づけない、帰れない

松井英介

福島県双葉町民約7,000人は、全国各地に避難を余儀なくされました。

私は、1月後半から2月かけて、福島県、埼玉県、茨城県にある六ヶ所の仮設住宅・避難所・借り上げ住宅の方々に、「内部被曝」の話を聞いていただく機会に恵まれました。今までに訪れた四ヶ所とも、お年寄りが多かったのですが、熱心に話を聞いて下さいました。また、活発な意見交換ができました。福島の人のはものを言わないなどと聞きますが、私が出会った人びとはそうではありませんでした。東電と政府の責任についてははっきりと発言する方がおられました。

福島市仮設住宅内では、1.75mSv/yr (0.19 μ Sv/h)を計測。白河市では、1.66mSv/yr (0.2 μ Sv/h)。いわき市三崎公園では、1.47mSv/yr (0.168 μ Sv/h)でした。1991年制定の「チェルノブイリ法」は、年間1ミリ・シーベルト (mSv/yr) 以上の地域からは避難する権利を定めました。1977年に発表された「マンクーン報告書」は、原子炉運転作業に携わる労働者を年間1ミリ・シーベルト (mSv/yr) 以上の現場で働かせてはならないとしました。

仮設住宅の放射線量は高すぎるのです。子どもと一緒に暮らしている家族はありませんでした。また仮設住宅があまりにも狭い(3畳二間に台所と風呂)のも、家族が分断される原因だと考えさせられました。このような環境でふた冬を過ごし、まもなく2年です。

福島市の仮設住宅でお会いしたYさん夫妻 (夫86歳、妻82歳、写真)の話が忘れられません。

原発から4km、代々の専業農家で2町歩の米作り、築200年、間口20mの二階建て。秋にはおじいちゃんが渋柿をもいで、おばあちゃんが二階の軒先に吊るす。その数、一連に10個が千連、合計一万個。地震で土蔵と母屋の一部は壊れたけれど、先祖代々の家はそのまま残っている。でも近づけない、帰れない。原発から4km山田地区の空間線量は年間1,042ミリシーベルト (mSv/yr)。年間1シーベルト (Sv/yr) を超えているのです。

「原発関連の交付金で造った物はすべて町に置いてきました。原発の誘致は町だけで出来ない、県が大きく関わってはじめて可能となる。私たちは全国の人たちから、『お前たちが原発を誘致しておいて被害者面するな』という批判を受けている。私たちはどこにいても本当の居場所がない今、苦悩に負けそうになりながら必死に生きている」。「町には古くから先人が築いてきた歴史や資産があります。歴史を理解していない人に中間貯蔵施設を造れとは言われたくありません。町民の皆さんが十分議論した後には方向を決めていただきたい。若い人に決めてもらうようにしてほしい」。

辞任に追い込まれた井戸川町長が1月23日に書かれたメッセージ「双葉町は永遠に」の一節です。双葉町のwebsite (<http://www.town.futaba.fukushima.jp/>)に入るとその全文が読めるので、ぜひともお目通しください。



おじいちゃんは脚が不自由なので、働き者のおばあちゃんがチリトリで雪かきをしました。